

好きを作ってくれるお兄ちゃん

今井^{いまい}さとみ

「この音合ってる？」

毎日練習するエレクトーンの音チェックをしてもらう。

お兄ちゃんは習い始めて九年、わたしは六年になる。聞けば「ちがうよ、こうだよ」とさりとひいてくれる。さすが。

お兄ちゃんはお手本で、家では小さな先生だ。

週末はエレクトーンの練習が終わるとゲームタイム。お兄ちゃんがやっているゲームはわたしも好きになる。最初は下手ついで全然相手にならなくてバカにされる。負けっぱなしじゃくやしきから、練習して対戦相手になるくらいはレベルアップする。お兄ちゃんに勝てた時は何よりもうれしい。勝った喜びもあるけれど、お兄ちゃんがくやしがつて「もう一回！」とまたいつしよに遊んでくれるからだ。読んでいるマンガや食べ物、音楽やテレビ番組もだいたい好きになる。わたしの流行の発信地はお兄ちゃんだ。ずっとお兄ちゃんを追いかけている。

それなのに、今年お兄ちゃんは中学生になった。いつもいつしよに行っていたのに小学校にお兄ちゃんはいない。

お母さんに「さびしい？」って聞かれて「ぜんぜん！」って言ったけど、やっぱり本当はさびしい。新しい生活にワクワクしてて、いそがしそう。わたしの知らない同級生の人と電話してる。部活で帰りもおそいし、土曜日も練習に出かけている。宿題がいっぱいあるのか、ねる時間も遅くなっている。わたしはお母さんに「早くねなさい」って言われるのに。急に大人になっちゃったみたい。追いかけてくても、いつも飛び回っているお兄ちゃん。なおさら週末のゲーム対戦が大事に思えてきた。

でもその日一日のあったことを話してもらうと、わたしは中学生になったらこうしようかな、あんなことしたいなどワクワクさせてくれる。わたしの先を歩いて、新しい世界を見せてくれる。新しい「好き」を見つけさせてくれる。いつまでもわたしの「好き」を作ってくれるお兄ちゃんをいて欲しい。

「兄ちゃん、対戦しよっ！」